



市民ネットワーク鶴ヶ島は
大野ひろ子を
市議会に送っています

ネ	ツ	ト
通	信	NO. 13

9月議会報告 2014.10
発行 / 市民ネットワーク鶴ヶ島
鶴ヶ島市富士見2-12-15



<http://www.tsuru-net.org/>

今こそエネルギーシフトを!

◆企業・自治体も困惑

九州電力は、9月25日、固定価格制度に基づく再生可能エネルギー買い取りを九州全域で中断すると発表しました。

対象は新規受け入れだけではない約7万件も含まれています。太陽光発電など再生可能エネルギーの発電量の急増に送電設備が間に合わず、安定供給に差しさわりの出るというのが理由です。

再生可能エネルギーを使う事業計画が進む一方での受け入れ中断は大きい影響があります。再生可能エネルギーに多額の投資してきた企業、導入を促進してきた自治体は困惑しています。

◆無視された。パブリックコメント

さらに、原子力規制委員会は、9月10日、川内原子力発電所1、2号機が新規規制基準を満たしているとし、再稼働の許可を九州電力に出しました。

7月～8月に実施されたパブリックコメントには、火山噴火に伴うリスク、運転期間がもうすぐ30年を超え老朽化している、緊急時での有効な避難計画が示されていないなど1万7,000件を超える意見

が提出されています。

◆今こそエネルギーシフトを

2010年、自然エネルギーの世界での総発電量が、原子力の総発電量を追い越しました。そして、世界で最も成長している産業が自然エネルギー分野です。

稚内市では、特性である「風」を生かして現在では74基の風車が稼働中。この発電量は、稚内市の電力需要の85%に相当しているとのことです。

今から1年前、大飯原発4号機が発電を中止し、原発ゼロの状態となりましたが、深刻な電力不足は生じていません。老朽化した原発を、運転停止・廃炉にしても電力供給に支障がないことは明らかです。

今こそ、未来のエネルギーを、自分の問題として考える時です。

原子力や化石燃料に頼らない選択肢はいろいろあります。

※市民ネットワーク鶴ヶ島は、8月「九州電力株式会社川内原子力発電所1号炉及び2号炉の発電用原子炉設置変更許可申請書に関する審査書案」に対する科学的、技術的意見の募集について、稼働反対のコメントを原子力規制委員会、原子力規制庁原子力規制部規制管理官に提出しました。